

## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場会社名 株式会社銀座山形屋 上場取引所 東  
 コード番号 8215 URL http://www.ginyama.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小口 弘明  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 瀬戸山 英児 TEL 03-6866-0276  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	2,595	9.2	△78	-	20	-	5	-
2021年3月期第3四半期	2,377	△39.8	△601	-	△379	-	△628	-

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △155百万円 (-%) 2021年3月期第3四半期 △344百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	3.23	-
2021年3月期第3四半期	△364.42	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	4,477	2,144	47.9
2021年3月期	4,459	2,308	51.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 2,144百万円 2021年3月期 2,308百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2022年3月期	-	0.00	-	-	-
2022年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,697	14.5	5	-	38	-	28	-	16.23

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 社（社名）、除外 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期3 Q	1,804,471株	2021年3月期	1,804,471株
2022年3月期3 Q	79,405株	2021年3月期	79,325株
2022年3月期3 Q	1,725,130株	2021年3月期3 Q	1,725,216株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 業績の状況 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(重要な後発事象) .....	7
(セグメント情報等) .....	8
3. その他 .....	9
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、10月に緊急事態宣言が解除され、生産・消費両面においてやや景気の持ち直しの動きが見られました。

小売業界におきましては、インバウンド効果はほとんどなかったものの、10月以降、外食・旅行・サービス消費などにおいて持ち直す動きが見られました。

このような環境の中、弊社のオーダーメイドスーツ販売事業も回復の動きが見られました。冠婚葬祭イベントの再開に伴う礼服需要や秋冬物ビジネススーツ・オーダーコート需要、夏場に延期された催事の開催など、回復した販売部門に対応する形で製造部門も改善の動きが見られました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は2,595百万円(前年同四半期比9.2%増)となりました。販売費及び一般管理費は経費節約に努めた結果1,501百万円(前年同四半期比7.9%減)となり経常利益は20百万円(前年同四半期は379百万円の経常損失)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は5百万円(前年同四半期は628百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

#### 小売事業

10月の緊急事態宣言解除に伴い、消費活動が活発化したことにより、売上高は1,468百万円(前年同四半期比9.2%増)、営業損失21百万円(前年同四半期営業損失210百万円)となりました。

#### 卸売事業

夏場の新型コロナウイルス感染症拡大により延期された展示会が10月以降開催されたことから、売上高697百万円(前年同四半期比21.1%増)、営業損失6百万円(前年同四半期営業損失93百万円)となりました。

#### 受託縫製事業

消費活動の回復や新規受注先開拓により、売上高1,350百万円(前年同四半期比3.6%増)、営業損失4百万円(前年同四半期営業損失280百万円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

財政状態は、次のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して17百万円増加し、4,477百万円となりました。

資産の部では、流動資産が前連結会計年度末と比較して198百万円増加しました。受取手形及び売掛金が減少した一方で、季節要因による現金及び預金の増加したこと等によるものであります。

固定資産は前連結会計年度末と比較して181百万円減少しました。主な要因は投資有価証券の時価が減少したこと等によるものであります。

負債の部では、前連結会計年度末と比較して181百万円増加しました。これは主に買掛金等の営業債務の決済が銀行休業日の関係で翌四半期へずれこんだこと等によるものであります。

純資産の部においては、主に親会社株主に帰属する四半期純利益5百万円の計上をした結果、当第3四半期連結会計期間末の株主資本は、2,102百万円となりました。

また、その他有価証券評価差額金は161百万円の減少でありました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月13日に公表いたしました2022年3月期の連結業績予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,304,969	1,579,304
受取手形及び売掛金	380,724	368,152
商品及び製品	147,708	106,020
仕掛品	17,540	19,846
原材料	114,618	98,993
その他	100,562	92,370
貸倒引当金	△2,079	△2,001
流動資産合計	2,064,044	2,262,687
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	121,434	128,686
その他(純額)	181,998	177,105
有形固定資産合計	303,432	305,792
無形固定資産		
その他	98,582	81,499
無形固定資産合計	98,582	81,499
投資その他の資産		
投資有価証券	1,292,987	1,132,931
敷金及び保証金	567,130	559,910
繰延税金資産	4,265	3,728
その他	138,036	139,484
貸倒引当金	△8,831	△8,831
投資その他の資産合計	1,993,589	1,827,222
固定資産合計	2,395,604	2,214,514
資産合計	4,459,648	4,477,201
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	122,801	237,850
1年内返済予定の長期借入金	-	88,782
未払法人税等	8,153	15,615
ポイント引当金	42,561	-
資産除去債務	2,762	2,897
その他	485,404	576,824
流動負債合計	661,683	921,970
固定負債		
長期借入金	620,000	531,218
役員退職慰労引当金	111,934	108,411
退職給付に係る負債	506,659	526,343
資産除去債務	192,933	193,163
繰延税金負債	31,920	32,294
その他	26,095	19,175
固定負債合計	1,489,543	1,410,604
負債合計	2,151,226	2,332,575

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
利益剰余金	△541,043	△543,216
自己株式	△81,430	△81,495
株主資本合計	2,105,086	2,102,849
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	203,335	41,776
その他の包括利益累計額合計	203,335	41,776
純資産合計	2,308,421	2,144,626
負債純資産合計	4,459,648	4,477,201

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	2,377,511	2,595,430
売上原価	1,348,350	1,172,179
売上総利益	1,029,160	1,423,250
販売費及び一般管理費	1,630,672	1,501,543
営業損失(△)	△601,511	△78,293
営業外収益		
受取利息	68	64
受取配当金	28,710	30,639
受取手数料	7,836	7,440
受取保険料	886	-
助成金収入	181,973	57,238
雑収入	7,256	8,740
営業外収益合計	226,732	104,124
営業外費用		
支払利息	1,549	3,110
修理費	790	-
業務委託費	2,400	1,961
雑損失	-	35
営業外費用合計	4,739	5,107
経常利益又は経常損失(△)	△379,518	20,723
特別損失		
減損損失	165,115	-
投資有価証券評価損	7,018	-
固定資産除却損	2,589	-
事業整理損	59,023	-
店舗閉鎖損失	10,366	-
特別損失合計	244,113	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△623,632	20,723
法人税、住民税及び事業税	5,525	14,645
法人税等調整額	△449	508
法人税等合計	5,075	15,154
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△628,708	5,569
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△628,708	5,569

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△628,708	5,569
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	284,536	△161,558
その他の包括利益合計	284,536	△161,558
四半期包括利益	△344,172	△155,988
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△344,172	△155,988



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による変更点は、当社は銀座山形屋メンバーズカードによるカスタマー・ロイヤリティ・プログラムを提供しており、会員の購入金額に応じてポイントを付与し、50ポイントを5,000円として利用出来ることとしております。従来は、付与したポイントの利用に備えるため、将来利用されると見込まれる額をポイント引当金として計上し、ポイント引当金繰入額を販売費及び一般管理費として処理しておりましたが、付与したポイントを履行義務として識別し、将来の失効見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,764千円増加し、販売費及び一般管理費は4,021千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ7,742千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は7,743千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として「流動負債」の「その他」に含めて表示することといたしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,345,759	575,534	452,977	2,374,271
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	850,282	850,282
計	1,345,759	575,534	1,303,259	3,224,553
セグメント損失(△)	△210,147	△93,093	△280,985	△584,226

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△584,226
棚卸資産の調整額	1,178
全社収益(注1.)	207,716
全社費用(注2.)	△226,179
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△601,511

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

閉鎖を決定した北海道工場の資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該影響によるセグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「受託縫製事業」593千円、各報告セグメントに配分していない全社資産56,339千円であります。なお、回収可能価額は、正味売却価額で測定し、零として算定しております。

また、「小売事業」セグメントにおいて、営業活動から生じる損益が継続してマイナスの店舗で、今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として80,377千円特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

また、「卸売事業」セグメントにおいて、営業活動から生じる損益が継続してマイナスの営業所で、今後も収益改善の可能性が低いと判断した営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として27,806千円特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,468,909	697,009	426,271	2,592,190
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	924,096	924,096
計	1,468,909	697,009	1,350,368	3,516,286
セグメント損失(△)	△21,521	△6,832	△4,646	△33,000

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△33,000
棚卸資産の調整額	△348
全社収益(注1.)	171,984
全社費用(注2.)	△216,928
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△78,293

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。